

日本アフリカ学会 第 50 回学術大会

研究発表要旨集

2013 年 5 月 25 日（土）・26 日（日）

東京大学駒場 I キャンパス

日本アフリカ学会 第50回学術大会

2013年5月25日（土）・26日（日）

研究発表要旨集

大会実行委員会

東京大学大学院総合文化研究科グローバル地域研究機構

日本貿易振興機構アジア経済研究所

大会スケジュール

2013年5月25日(土)

時 間	内 容	会 場
9:30~12:00	口頭発表 フォーラム	11号館 (1101,1102,1108,1106)
12:00~13:30	昼食 評議員会	評議員会: 2号館 308
13:30~15:30	口頭発表 フォーラム	11号館 (1101,1102,1108,1106)
16:00~18:00	日本アフリカ学会創立 50 周年記念公開講演会 アフリカ研究の誕生 — 学会創立前後を回顧する —	
	開会挨拶・司会 栗本英世 (大阪大学) 講演 浦野 起央 (日本大学名誉教授) 諏訪 兼位 (名古屋大学名誉教授) 端 信行 (国立民族学博物館名誉教授/兵庫県立歴史博物館館長) 奥野 保男 (元朝日新聞記者) 閉会挨拶 川端正久 (龍谷大学名誉教授)	13号館 1323
18:00~18:15	50 年在籍会員顕彰式	13号館 1323
18:30~20:30	懇親会	東大生協駒場食堂部 1階 カフェテリア若葉

2013年5月26日(日)

時 間	内 容	会 場
9:30~12:00	口頭発表 フォーラム	11号館 (1101,1102,1108,1106)
12:00~13:00	昼食	
13:00~14:00	総会	13号館 1323
14:00~15:00	ポスター発表コアタイム	21KOMCEE MM ホール
15:00~16:00	口頭発表	11号館 (1101,1102,1108)
15:00~17:00	特別フォーラム 「アフリカ研究の手法」	
	趣旨説明 武内進一 (アジア経済研究所) 報告 石川 博樹 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 阪本 拓人 (東京大学) 佐川 徹 (京都大学) 中村美知夫 (京都大学) 西崎 伸子 (福島大学) 福西 隆弘 (アジア経済研究所) コメント 杉山祐子 (弘前大学) 高橋基樹 (神戸大学)	11号館 1106

◎研究発表について

1. 口頭発表の時間は15分（発表12分＋質疑応答3分）です。タイムキーパーは次のようにベルを鳴らしますので、発表者の方は時間厳守をお願いします。

10分経過：ベル1回（予鈴）

12分経過：ベル2回（発表終了）

15分経過：ベル3回（質疑応答終了）、その後は1分経過ごとにベルを4回ずつ。

2. 発表会場では、Windows系パワーポイント2007（または2010）の準備をしております。原則として、パソコンのつなぎ替えはおこなわない方針にいたしますので、いずれのOSをお使いの方も下記のとおり会場にお越しいただき、発表用ファイル（拡張子がpptかpptxのもの）をUSB経由で会場備え付けのWindowsマシンにコピーしてください。ただし、特殊なアプリケーションを使用される場合など、持ち込まれたパソコンへのつなぎ替えを例外的に認めることもあります（会場のプロジェクトはVGA規格となっておりますので、持ち込まれる場合は必要に応じて各自VGAアダプタをご準備ください）。つなぎ替えを希望される場合は、事前に事務局までメールでご連絡ください。また、パソコンで音声を再生したい方も、あらかじめご連絡ください。

3. 発表用ファイルは、USBフラッシュメモリに保存のうえ、以下の要領で準備してください。

25日（土）午前に発表する方 → 9時から9時30分までに発表会場のPCにコピー

25日（土）午後に発表する方 → 13時から13時30分までに発表会場のPCにコピー

26日（日）に発表する方 → 25日（土）の16時まで、もしくは、当日9時から9時30分までに、午後発表の方は当日14時までそれぞれ発表会場のPCにコピー

4. 配付資料がある方は、必要部数をご自分でご用意ください。当日に会場でコピーすることはできません。

5. ポスター発表の発表会場（21KOMCEE）には、貼り付け用のパネルを用意します。ポスターは、タテ180cmヨコ90cm以内のサイズで作成してください。発表者は学会会場に到着次第、各自でポスターを掲示してください。ポスター発表コアタイムは、26日（日）の14時から15時までです。発表者は、この時間帯に必ず自分のポスター付近に待機し、内容について説明してください。なお、この時間帯以外もポスター発表会場は開放されておりますので、学会参加者は自由にポスターを見ることができます。終了後、ポスターはご自分で回収してください。26日（日）午後4時にポスター会場を撤収しますので、残っているポスターは処分します。

◎食事などについて

大会期間中の昼食（お弁当）は、準備いたしません。大会会場付近には、生協食堂を含む、食堂やコンビニエンスストアなど、昼食を用意している多くの店舗がございます。研究大会当日には、こうした店舗の情報を提供いたしますので、各自でご対応ください。なお、第2日目の5月26日（日）は、大学構内の生協施設（購買部・食堂・書籍部）は閉店します（隣接のイタリアン・トマトカフェジュニア、並びにキャンパス内のフレンチレストラン、ルヴェ・ソン・ヴェールは開店）。大会事務局が提供する上記の店舗情報を是非ご活用ください。

◎荷物預かりについて

荷物預かり所の開設時間は以下のとおりです。貴重品はお預かりできません。

26日（土） 10:00～18:00

27日（日） 10:00～17:30

◎託児サービスについて

託児サービスは、原則として、お申し込みいただいた方のみご利用いただけます。お子様の安全を期するため、託児所の位置を会場図に表示しておりませんので、申込み者は11号館1階の学会受付でお尋ねください。

東京大学駒場 | キャンパス 案内図

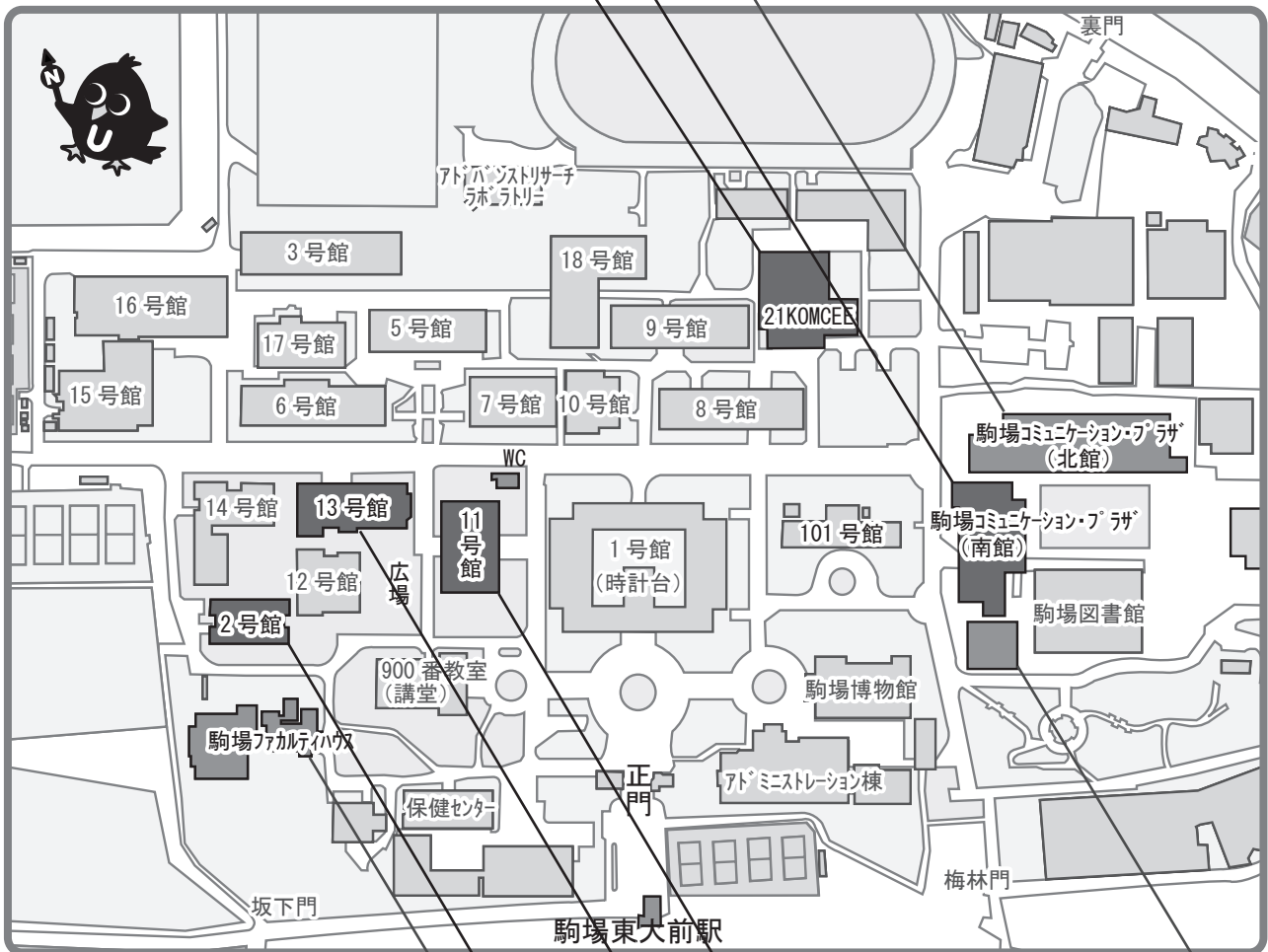
東大生協 駒場食堂 (1F カフェテリア若葉)

21KOMCEE

ポスター発表 (B1F MM ホール)
書籍販売 (B1F オープンスペースアリーナ)

懇親会 (5/25)

東大生協 購買部 書籍部 (5/25 のみ開店)



ルヴェ・ソン・ヴェール

イタリアン・トマト
カフェジュニア

2号館 (3F 308)

評議員会 (5/25)

13号館 (2F 1323)

学会創立 50 周年記念公開講演会 (5/25)
50 年在籍会員顕彰式 (5/25)

11号館

A 会場 (1101)

B 会場 (1102)

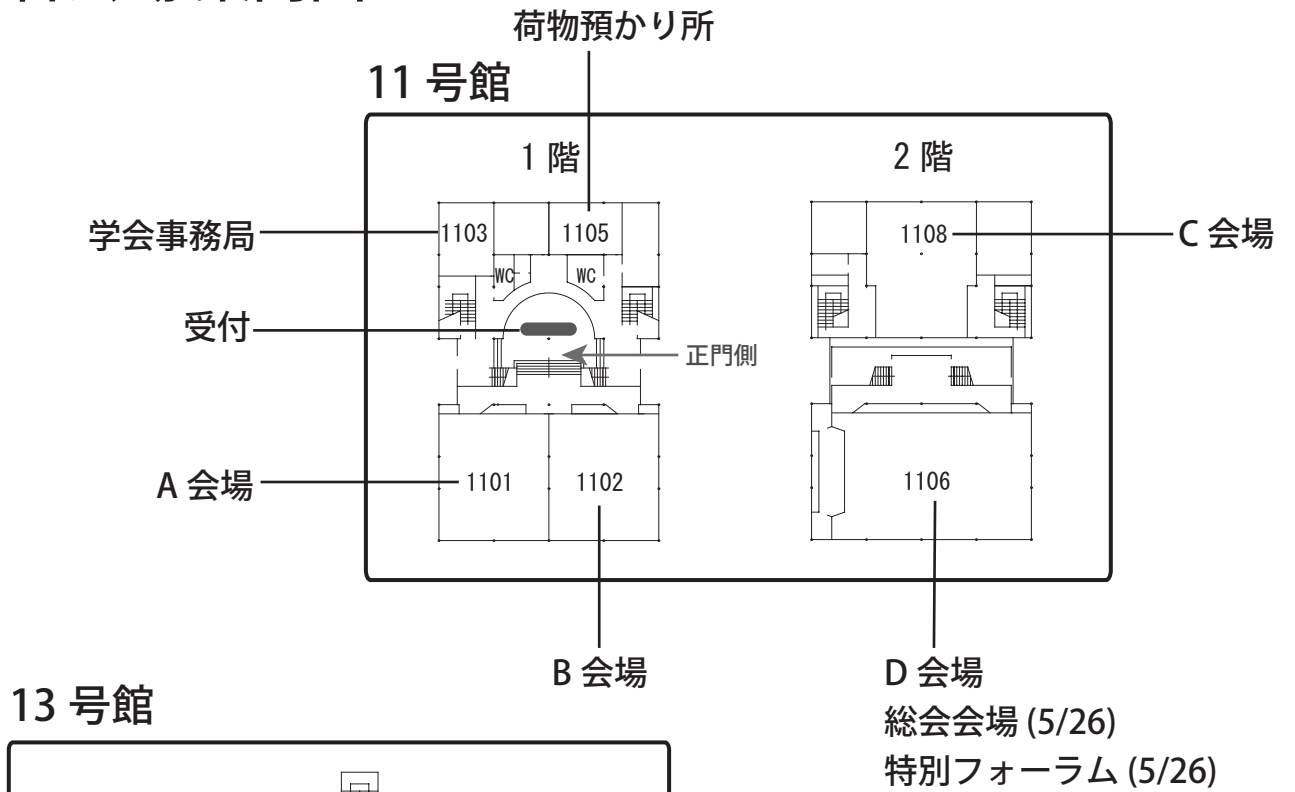
C 会場 (1108)

D 会場 (1106)

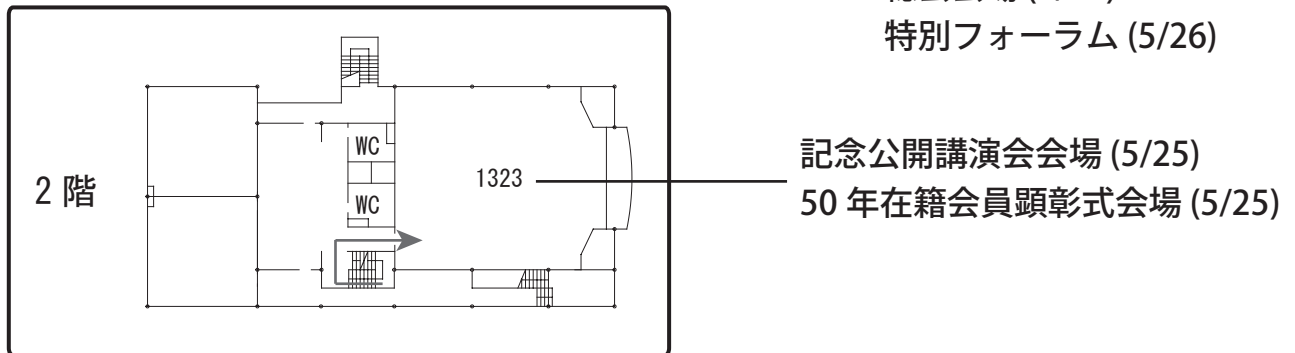
総会 (5/26 1106)

特別フォーラム (5/26 1106)

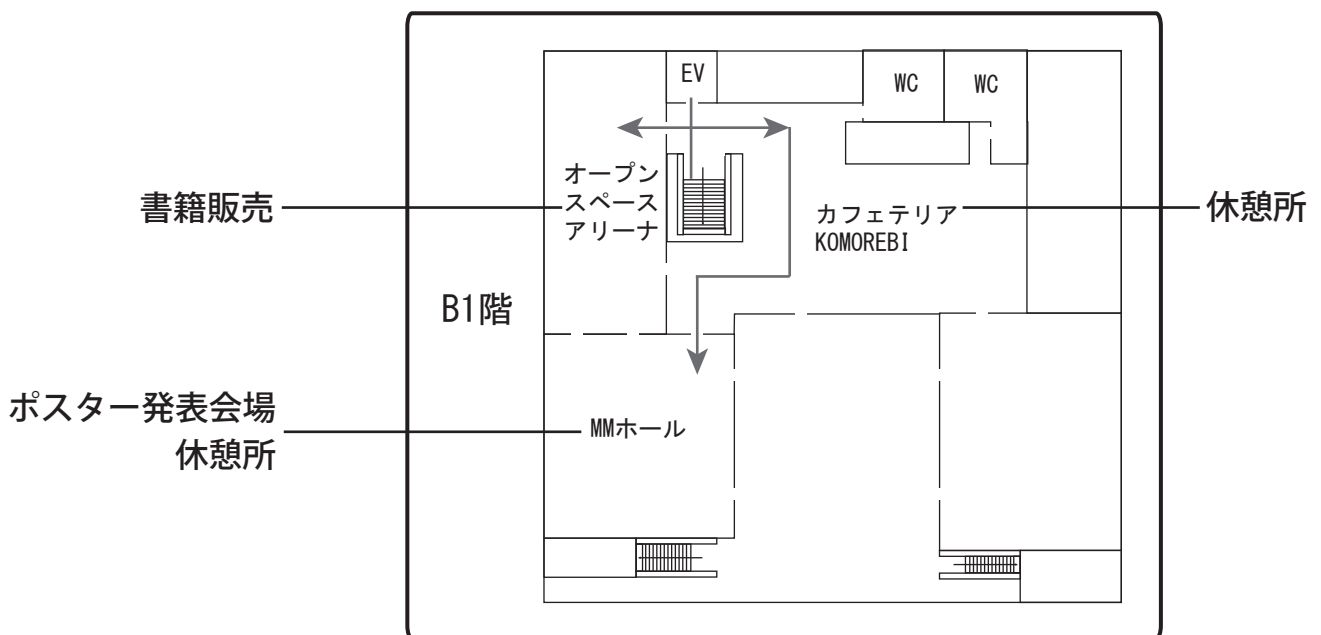
各会場 案内図



13号館



21KOMCEE (21コムシィ)



〈 2013年5月25日（土）午前 〉

時間	座長	A会場 (11号館1階 1101)	座長	B会場 (11号館1階 1102)
9:30	大山修一	A-1 神代ちひろ 京都大学大学院 マイクロファイナンスの自主運営 —ブルキナファソ農村における女性住民組織の事例から—	笹岡雄一	B-1 有井晴香 京都大学大学院 結婚が学校か —エチオピア西南部マーレにおける既婚女性の就業実践—
9:45		A-2 佐々木夕子ほか 総合地球環境学研究所 西アフリカ・サヘル地域の村落における技術普及と 社会ネットワーク —ニジェール共和国南西部の村落を事例として—		B-2 島津侑希 名古屋大学大学院 エチオピアにおける公的産業技術教育・職業訓練 (TVET)機関 —労働市場へのリンク形成とその課題—
10:00		A-3 佐久間寛 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 ニジェール西部の灌漑農地における「代表」を中心 とした社会関係の人類学的考察		B-3 大場麻代 大阪大学 貧困地域における小学校普及の現状と課題 —ケニアを事例に—
10:15		A-4 関谷雄一ほか 東京大学ほか 砂漠の人々のレジリエンス —ニジェール農耕民の技術の有効性—		B-4 澤村信英 大阪大学 マサイ女性にとっての小学校教育の意味 —ケニア・ナロック県の調査から—
10:30	児玉谷史朗	A-5 Samuel Amponsah 東京国際大学 Rural-Urban Disparities and Labour Mobility in Ghana	亀井伸孝	B-5 堀尾藍 INDIGO MAGAZINE ザンビアのコミュニティースクールにおける地域住 民主体の取り組み
10:45		A-6 溝内克之 青年海外協力協会 「発展／事業を助け合う」 —タンザニア・チャガ人の都市移動の展開—		B-6 中村聡 広島大学 「アフリカ」的教師像の理解に向けた一考察（1） —ザンビア南部におけるミッションナリーの入植を事 例に—
11:00		A-7 伊藤千尋 横浜市立大学 ザンビアの地方都市発達プロセスと地域社会にお ける役割の変遷 —南部州シアボンガを事例に—		B-7 神谷保彦 長崎大学大学院 アフリカにおける健康格差とUniversal Health Coverage
11:15	曾我亨	A-8 中村香子 京都大学 多様化するサンプル女性のライフコース —割礼・結婚・出産に注目して—	落合雄彦	B-8 凧幸世ほか 長崎大学 住血吸虫感染と人口密度の関連
11:30		A-9 成澤徳子 京都大学 ザンビア農村女性の贈答慣行と個人的友人関係の形 成・強化 —「友情セレモニー」の展開に関する予備的考察—		B-9 波佐間逸博 長崎大学 ヘルス・ケアの果てる場所、東アフリカ牧畜社会
11:45		A-10 佐藤廉也 九州大学 エチオピアの移動農耕民における成長と結婚		B-10 玉井隆 東京大学 マラリアへの対処をめぐる住民の葛藤 —ナイジェリア・ラゴスのマココ地区を事例に—
12:00	昼食・評議員会（評議員会は2号館308）			
13:30				

〈 2013年5月25日（土）午前 〉

時間	座長	C会場 (11号館2階 1108)	D会場 (11号館2階 1106)
9:30	鈴木裕之	C-1 古謝麻耶子 沖縄県立芸術大学 国を超えたネットワークが舞台制作に与える影響 —モザンビークの舞踊劇パイラードを事例として—	F-1 第2回 アフリカ生物学フォーラム 生物学はアフリカのために何が出来るのか よびかけ人： 足達太郎（東京農業大学） 山極寿一（京都大学） 趣旨説明 報告1 牛田一成（京都府立大学） アフリカにおける応用微生物学展開の技術的・倫理的課題 報告2 木村李花子（東京農業大学） グレビーシマウマの縄張りとグラントシマウマのハレム —社会構造と嗅覚コミュニケーション— 報告3 菊野日出彦（東京農業大学） ヤムイモ (<i>Dioscorea spp.</i>) の生理・生態学的研究 —アフリカで農学を行う意義とは？—
9:45		C-2 緒方しらべ 総合研究大学院大学 「アーティスト」を名乗る人びと —ナイジェリア、ヨルバ発祥の都市イレ・イフェに おけるつくり手の事例より—	
10:00		C-3 古川優貴 一橋大学 ケニアの壁の子供たちのダンスをめぐって —音楽人類学への新たな視点の提供と方法の提案—	
10:15	荒木美奈子	C-4 中尾世治 南山大学大学院 グローバリゼーション下の容器の形態とカテゴリー の動態について—ブルキナファソ、ダフィンの—農 村の事例から—	F-2 フォーラム 「アフリカ半乾燥地における降雨変動リスクと生業の 対応戦略」 座長：石山俊（総合地球環境学研究所） コメンテーター：池谷和信（国立民族学博物館） 趣旨説明：稲井啓之 報告1 門村浩（東京都立大学） アフリカ半乾燥地における最近の気候変動 —特徴と対応戦略の課題— 報告2 稲井啓之（京都大学大学院） カメルーン北部半乾燥地における降雨変動と内陸漁村 の対応 報告3 石山俊ほか（総合地球環境学研究所ほか） アフリカ半乾燥地穀物農耕の輪作と降雨変動 —スーダン国ガダーリフ州の在来技術— 報告4 坂井真紀子（東京外国語大学） 半乾燥地域における農牧民の生存戦略 —タンザニアドドマ州の事例から— 報告5 宮崎英寿ほか（総合地球環境学研究所ほか） 時期の異なる降雨イベントに小規模農民はどのように 対処したか？ —ザンビア南部州の事例— コメント・質疑応答
10:30		C-5 牛久晴香 京都大学大学院 稗をひもに変える —ガーナ北東部の輸出用バスケット製作を支える技 術—	
10:45		C-6 角田さら麻 京都大学大学院 ザンジバルの農村における建築資材の変容 —タンザニア・ベンバ島の事例—	
11:00	伊谷樹一	C-7 八塚春名 国立民族学博物館 タンザニアにおける狩猟採集民ハツァの文化観光 と生計変容	F-2 フォーラム 「アフリカ半乾燥地における降雨変動リスクと生業の 対応戦略」 座長：石山俊（総合地球環境学研究所） コメンテーター：池谷和信（国立民族学博物館） 趣旨説明：稲井啓之 報告1 門村浩（東京都立大学） アフリカ半乾燥地における最近の気候変動 —特徴と対応戦略の課題— 報告2 稲井啓之（京都大学大学院） カメルーン北部半乾燥地における降雨変動と内陸漁村 の対応 報告3 石山俊ほか（総合地球環境学研究所ほか） アフリカ半乾燥地穀物農耕の輪作と降雨変動 —スーダン国ガダーリフ州の在来技術— 報告4 坂井真紀子（東京外国語大学） 半乾燥地域における農牧民の生存戦略 —タンザニアドドマ州の事例から— 報告5 宮崎英寿ほか（総合地球環境学研究所ほか） 時期の異なる降雨イベントに小規模農民はどのように 対処したか？ —ザンビア南部州の事例— コメント・質疑応答
11:15		C-8 泉直亮 京都大学大学院 東アフリカ農牧社会における経済活動の現代的展開 —タンザニア・スクマの移住と豪農化—	
11:30		C-9 福田聖子 名古屋大学大学院 マラウイにおける在来土地制度と果樹栽培 —南部ムワンザ県におけるタンジェリンの贈与と相 続の実態調査から—	
11:45		C-10 中村亮 総合地球環境学研究所 スーダン紅海沿岸ドンゴナーブにみる乾燥熱帯沿岸 域の漁撈文化 —海洋保護区における資源の利用と管理—	
12:00	昼食・評議員会（評議員会は2号館308）		
13:30			

〈 2013年5月25日（土）午後 〉

時間	座長	A会場 (11号館1階 1101)	座長	B会場 (11号館1階 1102)
13:30	船田クラーセンさやか	A-11 伊谷樹一 京都大学 タンザニアにおける環境保全とマイクロ水力発電 (1) —ムベヤ州モンバ県での取り組み—	古市剛史	B-11 中務真人ほか 京都大学ほか 新しくナイロビ郊外で発見された鮮新世化石産地
13:45		A-12 黒崎龍悟 福岡教育大学 タンザニアにおける環境保全とマイクロ水力発電 (2) —ンジョンベ州ルデワ県の事例—		B-12 國松豊ほか 京都大学ほか 2012年ナカリ調査で出土した小型狭鼻猿
14:00		A-13 荒木美奈子 お茶の水女子大学 タンザニアにおける環境保全とマイクロ水力発電 (3) —ルブマ州ムビンガ県の事例—		B-13 仲谷英夫 鹿児島大学 アフリカにおける哺乳類化石研究の進展（日本人研究者による調査・研究史）
14:15	佐藤廉也	A-14 山根裕子ほか 名古屋大学ほか 土壌荒廃地域における環境修復目的の農民参加型プロジェクトと参加農民グループの実態とのギャップ—ケニア西部ビクトリア湖岸地域ルオの村での事例研究—	池谷和信	B-14 沢田順弘ほか 島根大学ほか アフリカ大陸における多様な棲息環境を反映するカタツムリ殻の炭素・酸素安定同位体比
14:30		A-15 上田元ほか 東北大学大学院ほか ケニア・ヴィクトリア湖岸の半乾燥地域における井戸水の利用と管理 —環境安全保障論の批判的検討に向けて—		B-15 水野一晴 京都大学大学院 アフリカの近年の気候変動および異常気象と生態系の変化 —ケニア山とナミブ砂漠の事例から—
14:45	小森淳子	A-16 竹村景子ほか 大阪大学ほか スワヒリ語諸方言調査報告 —接続形と命令形について—	池谷和信	B-16 木村圭司 北海道大学 アフリカ南部の気候変動 —降水量の季節変化と経年変動を中心に—
15:00		A-17 米田信子 大阪大学 スワヒリ語におけるアクセント・フレーズ		B-17 桐越仁美 京都大学大学院 ニジェール中南部サヘル地域における農耕民ハウサの干ばつへの対応 —樹木を利用した砂漠化防止と食料確保—
15:15		A-18 若狭基道 明星大学 ウォライタの謎々の文法		B-18 藤岡悠一郎 近畿大学 樹木への個体名の付与と個体性の認知 —ナミビア北部オヴァンボ社会の事例—
15:30 16:00	(移動・空き時間)			
16:00	日本アフリカ学会創立50周年記念公開講演会 (13号館1323)			
18:00	50年在籍会員顕彰式 (13号館1323)			
18:00 18:15	(移動・空き時間)			
18:15 18:30	懇親会 (東大生協駒場食堂部 1階 カフェテリア若葉)			
20:30				

〈 2013年5月25日（土）午後 〉

時間	座長	C会場 (11号館2階 1108)	D会場 (11号館2階 1106)
13:30	津田みわ	C-11 網中昭世 津田塾大学 第一次世界大戦アフリカ戦線における抵抗と抑圧 —モザンビーク北部およびアンゴラ南部の比較研究 のための予備的報告—	F-3 「アフリカ子ども学」フォーラム フランコフォン・アフリカの 学校教育と「伝統」教育 趣旨説明（5分）： 竹ノ下祐二（中部学院大学） 清水貴夫（総合地球環境学研究所） 報告（各15分） 1. 亀井伸孝（愛知県立大学） 狩猟採集民バカの子どもにおける学校教育と生活の現 在 —1990年代と比較して— 2. 阿毛香絵（フランス高等社会科学研究院） セネガルにおける初等教育とコーラン学校 —近代化、伝統教育と再イスラーム化の狭間で— 3. 清水貴夫（総合地球環境学研究所） ザルマ社会（ニジェール共和国）におけるクルアーン 学校 —ファカラ地方の広域調査から— コメントと総合討論 コメンテーター：澤村信英（大阪大学）
13:45		C-12 村尾るみこ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 アンゴラ出自集団の経済活動	
14:00		C-13 河野明佳 津田塾大学大学院 アパルトヘイト期南アフリカにおける「民族」形成 の試み —ソト人ホームランド・クワクワ議事を事例に—	
14:15		C-14 丸山淳子 津田塾大学 「兵士」から「先住民」へ —南部アフリカの脱植民地化とサン—	
14:30	峯陽一	C-15 阿部利洋 大谷大学 移民集住地域においてコミュニティを創出する —ヨービュー・ニュースの試み—	F-4 フォーラム 「激動のアフリカ国境地帯 —政治・経済・文化—」 澤田昌人（京都精華大学） コンゴ民主共和国東部における「国家機能」の衰退とウガン ダ、ルワンダとの関係 大石高典（京都大学） 国境の森をサバイバルする —コンゴ共和国内戦後のカメルーンとコンゴ— マスワナ ジャンクロード（JICA研究所） 増加する中国との貿易下におけるアフリカ経済地理 安溪貴子（山口大学） アフリカのキャッサバの毒抜きをめぐる文化史 —女の知恵は、大陸を超え、国境をこえる—
14:45		C-16 宮内洋平 立教大学 ヨハネスブルグの空間編成と統治性 —アパルトヘイト都市からネオ-アパルトヘイト都市 へ—	
15:00		C-17 西真如 京都大学 エチオピアにおける民主的な開発主義の可能性	
15:15		C-18 高井亮佑 早稲田大学大学院 アフリカにおける「法の支配」の確立がおよぼす 「民主主義の質」に対するインパクトの計量分析	
15:30 16:00	（移動・空き時間）		
16:00	日本アフリカ学会創立50周年記念公開講演会 （13号館1323）		
18:00	50年在籍会員顕彰式 （13号館1323）		
18:00 18:15	（移動・空き時間）		
18:15 18:30	（移動・空き時間）		
18:30	懇親会 （東大生協駒場食堂部 1階 カフェテリア若葉）		
20:30			

〈 2013年5月26日（日）午前 〉

時間	座長	A会場 (11号館1階 1101)	座長	B会場 (11号館1階 1102)
9:30	島田周平	A-19 平井將公ほか 京都大学 アフリカ熱帯雨林の保全と利用の両立にむけた住民との共同調査—地球規模対応国際科学技術協力「カメルーン・森林—サバンナ持続性プロジェクト」の活動から—	鈴木滋	B-19 飯田恵理子ほか 京都大学 西部タンザニア、ミオボ疎開林におけるブッシュハイラックスの日周活動
9:45		A-20 荒木茂ほか 京都大学 キャッサバ改良品種の現地試験結果と今後の課題—カメルーン森林-サバンナ持続性プロジェクトの活動より—		B-20 仲澤伸子ほか 京都大学 ヒョウ(Panthera pardus)がヒガシチンパンジー(Pan troglodytes schweinfurthii)を食べているという初証拠—タンザニア・マハラレにおけるヒョウの糞分析から—
10:00		A-21 Papa Saliou Sarrほか 京都大学 The benefit of leguminous cover-crops on cassava land crops fertility in Cameroon—カメルーン森林—サバンナ持続性プロジェクトの活動から—		B-21 五百部裕ほか 椋山女学園大学ほか オナガザル科霊長類の食物重複と食物の堅さ
10:15	荒木茂	A-22 浅野史代 京都大学 女性たちのとまどい：キャッサバ改良品種と在来品種の選択—カメルーン森林-サバンナ持続性プロジェクトの活動より—	山越言	B-22 田代靖子 京都大学 ウガンダ・カリンズ森林に生息するグエノン3種の種間関係—社会的遊びとグルーミング(予報)—
10:30		A-23 稲泉博己 東京農業大学 カメルーン南部ビチリ村のキャッサバ加工の現状		B-23 ルブラン ヴァンサン 京都大学 ギニアノギニアピサウのトリスタオ諸島にみるチンパンジーの島嶼性を通して民族学と霊長類学を架橋する
10:45	平野克己	A-24 ニコル・コイシュ フランクフルト・ゲーテ大学 ヨーロッパ学界における地域研究の発展と概念—アフリカを中心に—	宮脇幸生	B-24 金子守恵 京都大学 エチオピアにおける身体を基準にした単位—エンセーテ発酵デンプンの生産量とそのやりとりに注目して—
11:00		A-25 尹曼琳 金沢大学 アフリカにおける中国のプレゼンス—西アフリカの孔子学院を中心に—		B-25 曾我亨 弘前大学 難民の生存を可能にする新たな経済活動(2)—南エチオピアにおけるラクダ交易の変化—
11:15	真島一郎	A-26 松本尚之 横浜国立大学 在日アフリカ人の就業戦略とその問題—ナイジェリア・イモ州出身者の事例をとおして—	高根務	B-26 藤本武 富山大学 変わる協力のかたち—エチオピア西南部マロの農業労働をめぐる—
11:30		A-27 榎並ゆかり 同志社大学大学院 ムリッドの国際移動と商業ネットワーク		B-27 高村美也子 名古屋大学 タンザニア・ボンデイ族のココヤシ加工販売—女性、高齢者、身体障がい者への仕事分配—
11:45		A-28 正木響 金沢大学 越境する中間組織—ムリッド教団を中心に—		B-28 伊藤紀子 東京大学 ケニア稲作農村における新農業技術普及と社会ネットワーク
12:00	昼食			
13:00				

〈 2013年5月26日（日）午前 〉

時間	座長	C会場 (11号館2階 1108)	座長	D会場 (11号館2階 1106)
9:30	福西隆弘	C-19 出町一恵 神戸大学大学院 アフリカ諸国からの資本逃避と資本流出	佐藤章	D-19 岡野英之 大阪大学大学院 サブ・サハラ・アフリカの武力紛争 —定量的研究に隠れる1960年代から2000年代までの傾向—
9:45		C-20 杉本喜美子 甲南大学 西アフリカ各国の金融政策		D-20 関幸生 日本陸上競技連盟 2008年騒乱とロンドン五輪ケニア惨敗の因果関係 —スポーツは民族融和に有効か？—
10:00		C-21 西浦昭雄 創価大学 東アフリカ・ビール産業のサプライチェーン・マネジメント —研究課題—		D-21 片山夏紀 東京大学大学院 ジェノサイド後ルワンダにおける赦しと和解 —ガチャチャ裁判を事例として—
10:15		C-22 谷口裕亮 松山大学 アフリカ急成長の成長会計分析		D-22 米川正子 立教大学 国連平和維持活動による無人偵察機の初使用 —コンゴ民主共和国東部における文民の保護に役立つか？—
10:30	岩井雪乃	C-23 高橋遼ほか 東京大学大学院 森林コーヒー認証システムが森林保全に及ぼす定量的影響評価 —エチオピア国を事例として—	武内進一	D-23 岡田悦子 内閣府国際平和協力本部 国連PKOとAU平和維持ミッションの協力関係のあり方 —UNAMID（ダルフル）を中心として—
10:45		C-24 古市剛史 京都大学 コンゴ民主共和国における自然保護・地域開発とNGO活動の現状 —類人猿保護の現場から—		D-24 森川純 酪農学園大学 日本のアフリカ外交と「西側安全保障」への建設的？関与
11:00		C-25 鈴木滋ほか 龍谷大学ほか ガボンにおけるエコツーリズムの現状と課題 —熱帯林のアフリカ類人猿研究のポテンシャルを中心に—	F-5	<p>フォーラム 「土地をめぐる紛争と伝統的権威」 趣旨説明：佐川徹（京都大学大学院）</p> <p>壽賀一仁（一橋大学大学院） ジンバブウェ土地改革にみる再入植地の形成と伝統的権威 —同国中部マシング郡の事例から—</p> <p>大山修一（京都大学） 人びとの怒りによって殺されたチーフの魂が領域をまもる —ザンビアの土地法とベンバ社会の伝統的権威—</p> <p>目黒紀夫（東京大学） 土地をめぐる紛争と伝統的権威 —ケニア南部マサイ社会における集団ランチの私的分割の行く末—</p> <p>川口博子（京都大学大学院） ウガンダ北部における首長位の「復活」と土地問題 コメンテーター：松田素二（京都大学）</p>
11:15	C-26 橋本千絵ほか 京都大学 ウガンダ共和国カリンズ森林における森林パトロールプログラムについて —密猟をどう防ぐか—			
11:30	C-27 松浦直毅ほか 静岡県立大学ほか 住民参加によるアフリカ熱帯雨林の保全と地域開発に向けて—ガボンとコンゴ民主共和国の自然保護区における取り組み—			
11:45				
12:00	昼食			
13:00				

〈 2013年5月26日（日）午後 〉

13:00	総会 (11号館2階 1106)			
14:00	ポスター発表コアタイム (21KOMCEE MMホール)			
14:00		P-1 原口武彦 アフリカ日本協議会 アフリカ研究50年 — 学会員の私的総括 —		P-2 安岡宏和 法政大学 狩猟採集社会におけるシェアリングの二類型
15:00		P-5 田邊佳紀ほか 鹿児島大学ほか ケニア北部ナカリ層から産出した後期中新世齧歯類化石		P-6 松平勇二 名古屋大学 ショナ族のンビラ音楽の記譜
		A会場 (11号館1階 1101)		B会場 (11号館1階 1102)
時間	座長		座長	
15:00	森 山 工	A-29 川田順造 神奈川大学 モシ王朝史を語る太鼓言葉（ブルキナファソ） —2013年1月の追跡調査報告—	児 玉 由 佳	B-29 石原豊一 立命館大学大学院 開発援助としてのスポーツ普及活動の批判的検証 —ブルキナファソへの野球普及活動を例に—
15:15		A-30 森口岳 埼玉大学 ウガンダ、ガンダ民族の真正性と混交性について —クランの継承儀礼オルンベと周辺民族の関係を事例として—		B-30 浅野英一 摂南大学 アフリカの人材育成の展望と課題
15:30		A-31 浜田明範 一橋大学大学院 遊びを食べること —ガーナ南部における人物評価についての—考察—		B-31 飯澤良隆 利根エンジニア株式会社 マダガスカルの幽霊に遭遇して
15:45		A-32 田中正隆 高千穂大学 ベナンにおけるトークラジオとオーディエンス		
16:00				

〈 2013年5月26日（日）午後 〉

13:00	総会 (11号館2階 1106)	
14:00	ポスター発表コアタイム (21KOMCEE MMホール)	
14:00	P-3 大出悟ほか 鹿児島大学 エチオピア南部コンソ層産前期更新世ウマ科化石類 歯の三次元形態解析	P-4 半田直人ほか 鹿児島大学ほか ケニア北部サンプルヒルズおよびナカリから産出し た後期中新世 <i>Chilotheridium</i> (サイ科, 奇蹄目)化石
15:00		
時間	座長	C会場 (11号館2階 1108)
15:00	牧野久美子	C-29 斎藤文彦 龍谷大学 南アフリカにおける持続可能な社会への移行の苦悩
15:15		C-30 船田クラークンさやか 東京外国語大学 グローバル下アフリカにおける農業投資と政府開発 援助の一考察 —セラード開発とプロサバンナ事業の比較から—
15:30		C-31 戸田真紀子 京都女子大学 アフリカの貧困化と国際社会 —ケニア北東部ソマリ人社会を事例として—
15:45		C-32 杉木明子 神戸学院大学 「KONY 2012」とは何だったのか？ —ソーシャル・ネットワーク・サービス時代におけ る「保護する責任」と「人道的介入」—
16:00		D会場 (11号館2階 1106)
		特別フォーラム 「アフリカ研究の手法」 趣旨説明・司会： 武内進一（アジア経済研究所） 石川博樹（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化 研究所） 東洋史、エチオピア史、アフリカ史 阪本拓人（東京大学） コンピュータのなかで考えるアフリカ 佐川徹（京都大学大学院） 個人性と多様性をどう扱うのか —東アフリカ牧畜民の集団間関係をめぐる研究から— 中村美知夫（京都大学） アフリカでの霊長類研究 —古くさい手法で新たな「発見」をするには— 西崎伸子（福島大学） 原発事故後の「福島」と地域研究 福西隆弘（アジア経済研究所） 生じなかった現象を説明する試み —輸出参入の分析— コメント： 杉山祐子（弘前大学） 高橋基樹（神戸大学） (17:00終了)

